

# ハチプロレポート Vol.13

ラオス支援の現場を知る

2010年9月25日(土)新潟市市民活動支援センターのオープンスペースにて第11回ハチプロセミナー/NVC第60回地球を知る講座『ラオス支援の現場を知る・国際協力のあり方を考える』が開催されました。今回講師を務めてくださったのはJVCでラオス事業を担当している平野将人さんです。平野さんは、今ラオスでどのような問題が起きているのか、そしてJVCがどのような取り組みをしているのかについてお話しされました。参加者23人はラオスの現状を理解するとともに、その後のワークショップで意見を交わしあいました。

## ミニゲーム：

今回の講座では初めに、参加者の緊張をほぐすため「デートゲーム」を実施しました。参加者は、互いに会場においてデート相手を探し出し、その相手に自分の悩みを聞いてもらい、簡単なアドバイスを頂戴する、という参加者とコミュニケーションを図ってもらうというものを狙いとしたものです。ゲーム終了後は、「相手に悩みを聞いてもらっても、解決までにはいかなかった」「時間がなく悩みを一方的に話すだけで終わってしまった」という感想もありましたが、会場の雰囲気はゲーム前と比べ、参加者が言葉を交わしたことにより緊張も解け、平野さんのお話に臨むことができました。

## ラオスってどんな国？

平野さんのお話は、第一にラオスという国の紹介から始まりました。ラオスは森の豊かな東南アジアに位置する国です。アジアの最貧国とも言われるラオスですが、最近では外国企業による資源発掘などにより、経済成長率は8パーセントを記録しています。(ちなみに世界銀行、世界開発指標によると日本の2008年の経済成長率は-0.7%だそうです)また、水力発電、産業植林といった

経済開発にも力を入れています。

また、ラオスの人々のライフスタイルは、森とともに生きるというものです。森はラオスの人々の生活のために必要な物を提供し、人々はその恵みに感謝して生きています。ラオスの人々は木を家の建築材として利用し、かえる、イグアナ、きのこといった森に生息している生き物を食料としています。平野さんは、ラオスの人々にとって森というものはスーパーマーケットであり、ホームセンターであると表現されました。

## 森との共生にも危機が…

このようにラオスの人々は森を利用して生きています。しかし今そんなラオスの人々の生活に危機が迫っています。

皆さんは、「産業植林」という言葉を聞いて何を思い浮かべるでしょうか？木を植えるのだから環境に良い、と考える人もいるかもしれませんが、事態は非常に複雑です。今回、講師の平野さんはラオスの「産業植林問題」について話してくださいました。

「産業植林」とは産業のための原材料調達のために行われる植林のことをいいます。「産業植林」を行うと、短期間に特定の種類の木を栽培収穫するので、安定して良質の木材を大量に入手することができます。また、木材ばかりではなく紙の原料となる木ユーカリや、ゴムやサトウキビなども多くあります。(サトウキビは厳密には“植林”ではありませんが、村人の生活に影響を与えている可能性は高いです。)

企業は肥沃な土地で事業を実施したいので、荒地ではなく既にある豊かな森を切ってそこに植林することを希望します。しかし、生活に必要な不可欠な「森林」は減少してしまいます。例えば、ある場所にゴムの木ばかりを植えたとします。するとゴムの木を狙って、それを好物とした大量の害虫も森にやってきます。このゴムの木は産業用ですので害虫に食べられたら



平野さんによる講演の様子

どうしようもありません。そこで、植林関係者は農薬を使って害虫を退治します。この農薬がラオスの人々の生活を脅かします。なぜなら、森で使用された農薬は土や川を汚染し、森からの恵みをラオスの人々から奪ってしまうからです。

ラオスは、「飢えの無い貧困国」と言われていましたがそれが脅かされているのです。

JVC では、ラオスの人々が森を利用できるように様々な取り組みを行っています。

特に、「自然資源管理」事業では村人が主体となって森を管理できるように支援をしています。この取り組みで注目したいのは、JVC が物事を決定して、それを村人に実施してもらうのではなく、村人が自ら物事を決定し、自然資源管理をできるような仕組み作りを支援しているということです。村人が主体となることによって、村人が本当に必要としているものを自分たちで見つけていく、という自立への支援をしているということになります。

## ワークショップ

ワークショップは机ごとにグループを作ってもらい、グループのメンバーに今回の平野さんのお話で感じたことをポストイットに書いて模造紙にはってもらいました。模造紙には、「ミニゲームの感想」、「セミナーの感想」、「今までに行った国際協力」、「今回のセミナーの話聞いて国際協力・支援に対する考えに変化があったか。また今後どのように考えていきたいか」に分かれており、それぞれに各自でポストイットを貼っていききました。そして最後はグループごとにまとめた意見を発表していききました。

あるグループは、平野さんの言う NGO の使

命「NGO は期間が終わったら、いなくならなければならない。あくまでも主体は現地の人たち」という言葉に感動し、NGO の在り方について意見を交換しているところもありました。また、あるグループは「焼き畑農業は伝統的で持続的なやり方なら、森林破壊につながるということがわかった」と新しく知ったことを共有していました。

## 終わりに

平野さんの話を聞いて、JVC のラオス支援の様々な活動を知ることができました。特に私は JVC の支援のやり方がとても印象的でした。JVC は少しだけ村人たちの背中を押すだけで、後はアドバイス役に徹し、村人たちが自分たちで決めて行動できるようにする…。高校時代に学校でたびたび「受け身ではなく能動的になれ」と言われていたのでこのお話はとても共感できました。やはり人から言われて動く場合と、自分で決めて行動する場合とではやる気が全然違うように思います。また、ワークショップでも「本当の貧しさについて考えさせられた」「他の人々に今回のことを話したい」などの意見がでて、平野さんのお話は、参加したみなさんにとってこれからの過ごし方を考えていく上でとても興味深いお話だったと感じました。(報告者:村木 佳野乃)



支援とは何か、を考える参加者

**NVC 新潟国際ボランティアセンター-G8 プロジェクト実行委員会 (通称ハチプロ) は、今講演会修了後も定期的に世界の格差、貧困問題等について考える会を実施していきます。詳しくは、随時 NVC ウェブサイトに UP していきますので、皆様ぜひご参加ください。よろしくお願いいたします。**

## \* NVC/新潟国際ボランティアセンター・ハチプロ \*

〒950-8507 新潟市中央区西堀前道 6 番町 894-1 西堀 6 番館ビル 3F 新潟市市民活動支援センター内

Tel /Fax: 025-378-5374 E-mail: mikami.anri@nvcjapan.org

※この事業は新潟市中央区市民公益活動補助金の支援を受けて実施しました。